

■住民・第3分科会【事例報告】

◎NPO 法人 今井まちなみ再生ネットワーク

○テーマ：「空き町家の再生とコミュニティの再生」

○発表者：理事長 上田琢也

団体所在地：〒634-0812 橿原市今井町2丁目10-29

☎0744-29-0050

E-mail：imaisaisei-net@kcn.jp

URL：//web1.kcn.jp/imaisaisei-net/

理事会等：理事10名（理事長・上田琢也）

会員数：正会員74名（内訳：）

年会費：正会員2000円、賛助会員20000円

設立年月日：平成18年3月

●【地区の概要、NPO 設立の経緯】

今井町は浄土真宗の称念寺を中心に形成された寺内町として、南大和の商業の中心地として、戦国末期から江戸時代にかけて栄えた。平成5年その町並みが重要伝統的建造物群保存地区として指定を受けた。指定歴史的建造物は504軒を数える。昭和30年代より、町並み保存運動がいち早く発生し、伝建指定まで、その保存について、長く議論が重ねられた。商工業の町から、その後は静かな住宅地として存続していたが、近年、空き家が増加し、全戸の約1割が空き家となっています。空き家の増加に対して、有効な手だてが取られることなく経緯していましたが、特に空き家の解消、利活用により町家再生に取り組むことを柱に、地域住民と、建築、不動産などの専門家が参画するNPOが設立された。



●【主な活動】

○今井空き家バンクの活動

平成18年3月から24年3月までの6年間で、30軒の町家の利活用再生の実績となりました。現在、伝統的な町家での暮らしや町家を利用した店舗開店を希望する方が増加しつつあり、空き家バンクの登録者は、通常50組となっています。町家の所有者と借り手買い手希望者

との長い時間に渡る対話を土台にして、そのプロセスの中で、今井町の地域コミュニティに根ざす、意識や価値観を共有することを心がけています。しかし、現在、空き町家の老朽化が進み、その改修費用の高さもあり、いわゆる若い人々の移入に課題があるのではないかと考えられます。また、老朽化により、危険家屋も増加し、伝建地区でのこういった町家の対策についても課題となっています。

○町家暮らし体験館「今井庵」の開設

空き町家の利活用、再生のひとつの取り組みとして、町家への居住希望者が、実感として、町家暮らしの一端にふれることができるような施設ができないかとの思いで、この施設を開設しました。このような施設により、町家暮らし希望者が気軽に実感、ふれることができるようになったと考えられます。



○大和・町家バンクネットワーク

奈良県内には、伝統的な町家や町並みを有する地域が数多く点在しています。そして、今井町と同様に空き家の増加という課題を共有しています。私たちは、各地域の空き家についての情報を共有し、サイトの運営を通じて、相互のネットワーク化をはかっています。このような取り組みで、潜在的な空き町家のストックの増加をはかり、全国に発信できる町家の再生の取り組みとなっています。http://nara-machiya.com/

●【今井町コミュニティの再生と町家の再生】

NPOが取り組む町家の再生は、現在の今井町全体のまちづくりに大きくかかわっており、これからのまちづくりや今井町のビジョンというものがどのようなものであるかということ、個々の町家の再生の性格も左右されることになる。私たちは、NPOの取り組みと、今井町の既存の保存会の取り組みと、有機的に協力体制をつくり、また、相互の意見交換が必要であると考えられます。今後、どのような形で、NPOと既存のまちづくり組織とかがわかっていくかということが課題と考えています。